

提 言 書

はばたく産業のまち部会

テーマ：商工観光の振興について
—さらなる魅力発信にむけて—

はじめに

新見市を訪れる観光客数（観光客入り込み数）は、年間約 30 万人前後にのぼる。岡山県産業労働部観光課がまとめた平成 26 年岡山県観光客動態調査報告書（平成 27 年 8 月発表）によると、新見市を訪れた観光客数は、H24 年 30.5 万人 H25 年 32.4 万人 H26 年 29.8 万人 と推移しており、潜在観光客数は、30 万人程度であることが裏付けられる。

市内の主な訪問先は、新見千屋温泉いぶきの里（98,045 人）、満奇洞（63,615 人）、井倉洞（56,147 人）であり、観光客数の約 73.1%を占めている。

当部会では、地域が誇る自然、文化、歴史、食を観光資源として結びつけ、多くの方に新見市の観光施設を知ってもらい、訪れていただくためにはどのようなアイデアがあるのかを検討してきた。

そこで、さらなる魅力発信にむけてという視点で以下のことがらを提言する。

1 核となる観光ルートの設定と拡大

①基本観光ルートの設定

新見市のシンボリック観光地は、満奇洞、井倉洞であろう。前掲の報告書にもあるように両観光名所合わせて年間約 12 万人の観光客が訪れている。

この満奇洞、井倉洞、羅生門を基本観光ルートに設定し、高まりつつある人気の定着と底上げを推進してみてもどうか。

②基本ルートからの拡大

基本ルートの集客力を他の観光名所に派生させることにより、より多くの観光客の誘致をめざす。

また、観光ルートの広域化により、県北地域の相互交流を図る。

2 観光プロモーション動画の製作等による宣伝活動

①観光名所紹介、A級グルメに特化したプロモーション動画の製作と新たな観光客層の掘り起こし。

首都圏からの観光客を呼び込むため、とっとり・おかやま新橋館を有効活用する。

②市ホームページ、フェイスブックによる観光情報の発信

③マップ、パンフレット、観光スポット紹介バッグ（手提げ袋）の作成

④満奇洞、井倉洞内でのプロジェクションマッピングや既設看板の再製・巨大化

3 各種団体、旅行業者、JR 等の連携と環境整備

- ① 体験型観光ツアーの創設（農作業体験、林業体験など）
- ② 観光施設の割引付き回数券の発行、割引利用日の設定
- ③ 観光案内拠点の点在化、トイレ休憩所の設置
- ④ 防災公園周辺の活用 — プロサッカークラブのサブグラウンド誘致活動

4 外国人観光客の取り込みにむけて

外国人観光客に新見の魅力を伝え、実際に訪れてもらうためには、外国語による情報発信とより細やかな対応が求められると考える。

そこで、ネットを有効活用した新たな誘致活動を展開してみてもどうか。

具体的には、市ホームページ、フェイスブック、案内看板の英語表記の実施をはじめ、以下の試みを提案したい。

- ① 外国人宿泊サイトへの登録
- ② A級グルメ、千屋牛、ピオーネ、キャビア等食に特化した観光ルートの形成
- ③ ボランティアガイドの養成
- ④ Wi-Fi 環境の整備

まとめ

雄大な自然により造りだされた満奇洞、井倉洞には毎年多くの方々が訪れる。

若いカップルや家族連れの層にその魅力が浸透しつつあるように思われるが、こうした人気を背景に歴史、文化と結びつきの深い市内の観光施設との連携を図ることにより、この地域を訪れないと味わえないような感動と体験をさらに広められることを期待する。

以上